

花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol. **03**

H28年9月21日号



フラワーフェスタに向けた 花壇の施工を行いました

フラワーフェスタ 2016 に出展する花壇に花の植え付けを行いました。台風一過、晴れて過ごしやすい気候の中、皆さんで協力して作業することが出来ました。

日時：平成 28年 9月 21日 (水)
9:30~12:30
場所：馬見丘陵公園
(花サポーター花壇)
参加者：29人

◆当日のスケジュール◆

9:30 全体説明、班分け
9:50 苗の運搬、既存苗撤去
10:30 苗の配置、植付
12:30 終了



▲植付直後の花壇

▼花壇イメージ図



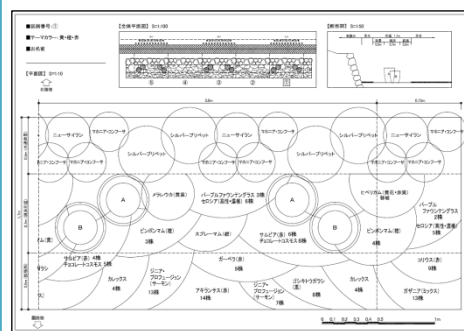
花壇づくりを始める前に

今回施工する花壇について、作業を始める前に図面の見方の確認や、誰が何処を作業するか班分けを行いました。



▲作業前のオリエンテーション

全長 17mの花壇を5分割し(1班、3班、5班の区画にはコンテナの作業も含まれる)、それぞれの区画の計画図面に基に作業を行う段取りを確認しました。計画図面とプランイメージ(上図)を見比べながら、自分たちの班が何の苗をどれだけ植えるのかを確認し、イメージを膨らませました。早速、各班内で作業分担会議が行われていました。



◀花壇①の計画図面



去年の低木類を後方に残し、新たに花を植えて花壇のリニューアル

花壇づくりは、まず現況花壇の苗の中から今回使用しない苗を撤去する作業から始まりました。後方の低木類や、今から花が咲く宿根草(ヤナギバヒマワリ、シコンノボタン、ラベンダーセージなど)の一部を残し、全て引き抜きました。



▲既存苗の撤去

1班、3班、5班はコンテナの作業があるので、足元に何も植えられていない内に、コンテナの中を先に作業しました。



▲苗の配置

ビニールポットが付いたままの苗を配置してみて全体のバランスを調整します。図面通りに並べても、実際の苗の高さやボリュームによっては前後を入れ替えたり、少し剪定するなどの調整が必要になります。特に今回使用した紫色

のクジャクアスターはとても大きかったので、出来るだけ後方に植え、隠れてしまう苗を見えやすいところに移植しました。スコップで根を傷付けないように周りの土を掘り、見える角度を調整しながら植え替えました。



▲既存苗の移植

苗の配置が決まったところから植え付け作業を行いました。ポットの中の根がギチギチになっているものは、講師の指導を受けながら根を削り、土を解して植え付けました。植え付け作業は皆さん普段から慣れていらっしやるので、位置が決まっ



▲ポット苗の根を調整

てからはとても早く作業が出来ました。根が活着して苗が成長し、さらに密度を増した花壇になるのが楽しみです。



今年度のチャレンジ!!

今年度の新たな試みとして、花壇の中にコンテナを配置した修景と、石垣の上につる性の植栽を植えて下垂させる修景を行いました。コンテナ植栽は、コンテナ自体が白色なのでアクセントとなり細長い花壇の中でリズムを演出しています。石積上につる性植物は、まだ植えたばかりなので小さいですが、苗が大きく成長したり紅葉が始まると、だんだんと存在感が出てきます。石垣を這うように、ボーダー花壇を後方から装飾します。



▲花壇中のコンテナ

▼石垣上につる性植物

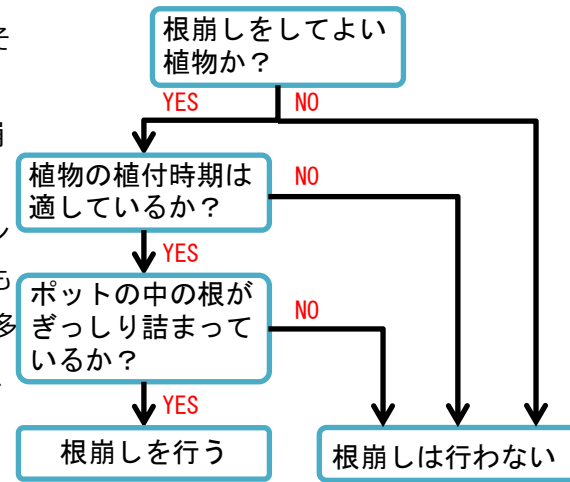


ポット苗の植え付け

花壇やコンテナで植物を育てる場合、種から育てるか苗を買ってきて植え付けるかになると思います。ここではポット苗を花壇やコンテナに植え付ける考え方を紹介します。

ポット苗を植え付ける際、根鉢を崩すかそのままが良いか？

植え付ける植物の種類によって、根鉢を崩した方がその後の生育が良いものと、崩すとその後の生育に支障があるものがあります。根鉢を崩すことによって、細根を多く出し、多くの水分や肥料分を吸収します。基本的にはポットの中の根がパンパンになっていたら、根は崩したら良いですが、あまり根が張ってなければ崩す必要はありません。根が張ってなければ、逆に土を両手でコンパクトにして細かい根を密着させてから植えると良いです。(ハンギングバスケットも同様にすると良いです。) また、植え付け時期がその植物の成長期かどうかとも確認しましょう。生育期は植物が大きくなろうとしている時期で回復力があるので、根鉢を多少崩してもかまいませんが、真夏や真冬など植物にとって過酷な時期には植え付けを避け、植え付ける際にも根鉢を崩さずにそのまま植え付けた方が良いでしょう。



根崩しをしない方が良い植物は？

●針葉樹

針葉樹は、細長い針のような葉を持ちます。さまざまな樹形と豊富な色があり、園芸用語ではコニファーと呼ばれ、最近ではゴールドクレスト（モンレーサイプレス）など、クリスマスツリーの木としても使われています。

針葉樹の根は粗く、地表の浅いところでネット状に横へ広がります。(アカマツ、クロマツ、モミなど「深根性」の針葉樹もあります)



▲ゴールドクレスト

●直根性の植物

貯蔵根や支持根、気根等の特殊な機能を除くと、植物の根は大まかに「主根型」と「ひげ根型」の2つに分けられます。主根型の根の中で、横から出る側根が小さく、主根が垂直にのびて肥大した根のことを直根と言います。(ダイコンやゴボウなど) これらを直根性の植物と言います。直根を傷つけると植物へのダメージが大きいため、植替えはあまりお勧めしません。以下に代表的な直根性の植物を紹介します。

○ケシ科の植物

ヒナゲシやクサノオウなどのケシ科の植物は、1000～2000個の種を飛ばすので、道端で実生で増えていることが多いです。

ちなみに、ポピーとは広くケシ科のものを指し、オニゲシも栽培禁止植物であるアツミゲシもポピーです。



▲ヒナゲシ



▲レンゲソウ



▲ノゲイトウ

○マメ科の植物

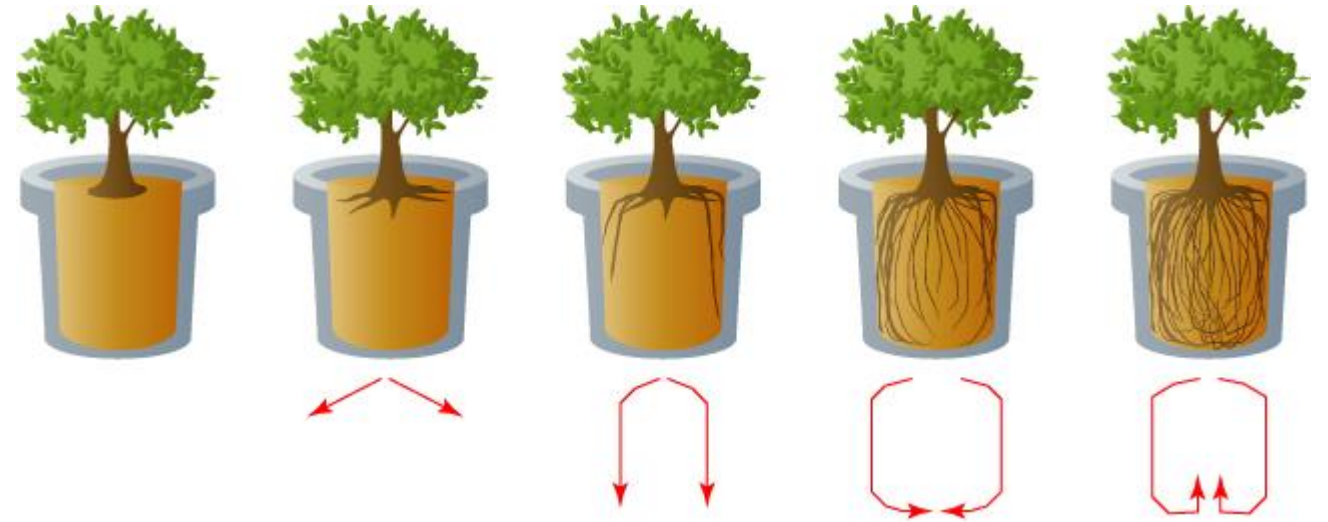
スイートピー、レンゲソウ、クローバー、フジなどのマメ科の植物は、つる性のものが多く、文字通り豆状の果実と種子を作ります。マメ科の根に寄生する根粒菌が空気中の窒素を植物内に固定する働きがあるため、レンゲソウなどは肥料として使われることもあります。

○ケイトウ等

夏～秋にかけて花壇でよく見られ、ノゲイトウや羽毛ケイトウなど様々な形があります。ケイトウは鮮やかな花色で秋の花壇を彩り、古くから親しまれているなじみのある花です。花房の先がニワトリのトサカに似ていることから「鶏頭」と呼ばれています。

植木鉢やポットの中の根の張り方

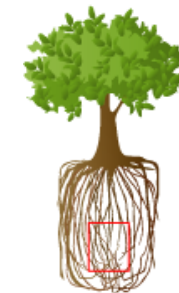
植物を地植えする場合、障害になるものがないので植物はのびのびと根を張りますが、植木鉢やポットに植えられている植物は、限られた空間で根を張らなければいけないので鉢の中でぐるぐると根を巻きます。以下に植木鉢やポット(以下、「鉢」という)の中の一般的な根の生長を示します。



- ①植木鉢やポットに苗を植えたばかりでは、まだ根は張っていません。
- ②鉢の中で、根はまず横方向に伸びはじめます。
- ③鉢の横方向に広がり切ると、根は下に向かって伸びます。
- ④鉢の下方向まで伸びきると、今度は鉢の中央に向かって根が回り込みます。
- ⑤鉢の下まで回り込んで行き場をなくした根は、鉢の中心の上方向に伸びはじめます。

根鉢の崩し方

※太い根を切ってしまうと、根を切り過ぎると植物が弱ってしまうので、鉢の中に根が回っている時にだけこの作業を行ってください。



鉢の中で、根の先端は左図の赤枠の部分に集まっています。

植物の根は、1.重力方向に伸びる

2.水分や肥料分のある方向に伸びる

3.先端ほど成長する

という性質があるため、放っておくと、赤枠の部分の根の密度がどんどん高くなります。鉢から植替えする場合は、新しい根が生えやすいように、根の先端部分を解してやります。



鉢の下部分の根をスコップやナイフを使って切り離します。この時、根にばかり注意が行き過ぎて、苗上部の花や枝が折れたりしないように気をつけます。

小さな花苗のポットの場合は、手で解します。根をちぎるよりも、解すことを意識します。



下部分の根がカットできたら、中央の根を掻き出します。既に切り離されているので、この部分に残っている根は死んでいます。残っていても特に害は無いので、土が硬い場合、この作業を無理矢理する必要はありません。